

## 台湾手話における感情のメタファー

チャン・チュンシン（張榮興）  
（国立正中大学〔台湾〕）

### 要旨

メタファー研究は人間の認知の探求にとって不可欠なところである。本発表では、台湾手話（TSL）では感情の概念がメタファーによってどのように表現されるか、特に怒りの感情に焦点をあてて議論を行う。Lakoff and Zoltán（1987）が指摘するように、「怒りは火である」や「怒りは入れ物の中の熱い液体の熱である」といった概念は、しばしば怒りの感情を描写するのに用いられる。（「彼は火を吐き、私は沸点に達した」など）。

Yu（2009）が指摘するとおり、英語と中国語は「怒りは火である」という中心概念的なメタファーを怒りのメタファー表現として共有している。しかし、英語では火と液体をメタファーとして使用するのに対して、中国語では同じ目的に火と気体を用いる。例えば“他滿腔怒火” *Ta man qiang nu-huo* 「彼は怒りに満ちている」や“他憋了一肚子氣” *Ta bie le yi duzi qi* 「彼は鬱屈した怒りに満ちていた」などがある（Yu 2009: 6, 9）。このことは、言語が異なれば、怒りのメタフォリカルな表現が、なんらかの側面で異なることを示している。本発表では、中国語の例と異なり、台湾手話では怒りを表現するのに液体と気体の両方を使用する傾向があることを示す。

本研究はメンタルスペース理論（Fauconnier 1994, 1997; Fauconnier and Turner 2002）の枠組みを用いて、(a) 「火は入れ物の中の液体である」という概念がどのようにソース領域として、ターゲット領域で台湾手話の怒りのメタファーを描写するために使用されるのか、(b) 台湾手話では、ソース領域の言語学的な構造に基づいて、どのように怒りの程度を表現するのか、(c) 台湾手話における怒りのメタファー表現のために、身体表現の概念がどのように組み合わせられるのかについて議論を行う。

キーワード：台湾手話、メタファー、感情、怒り、メンタルスペース理論